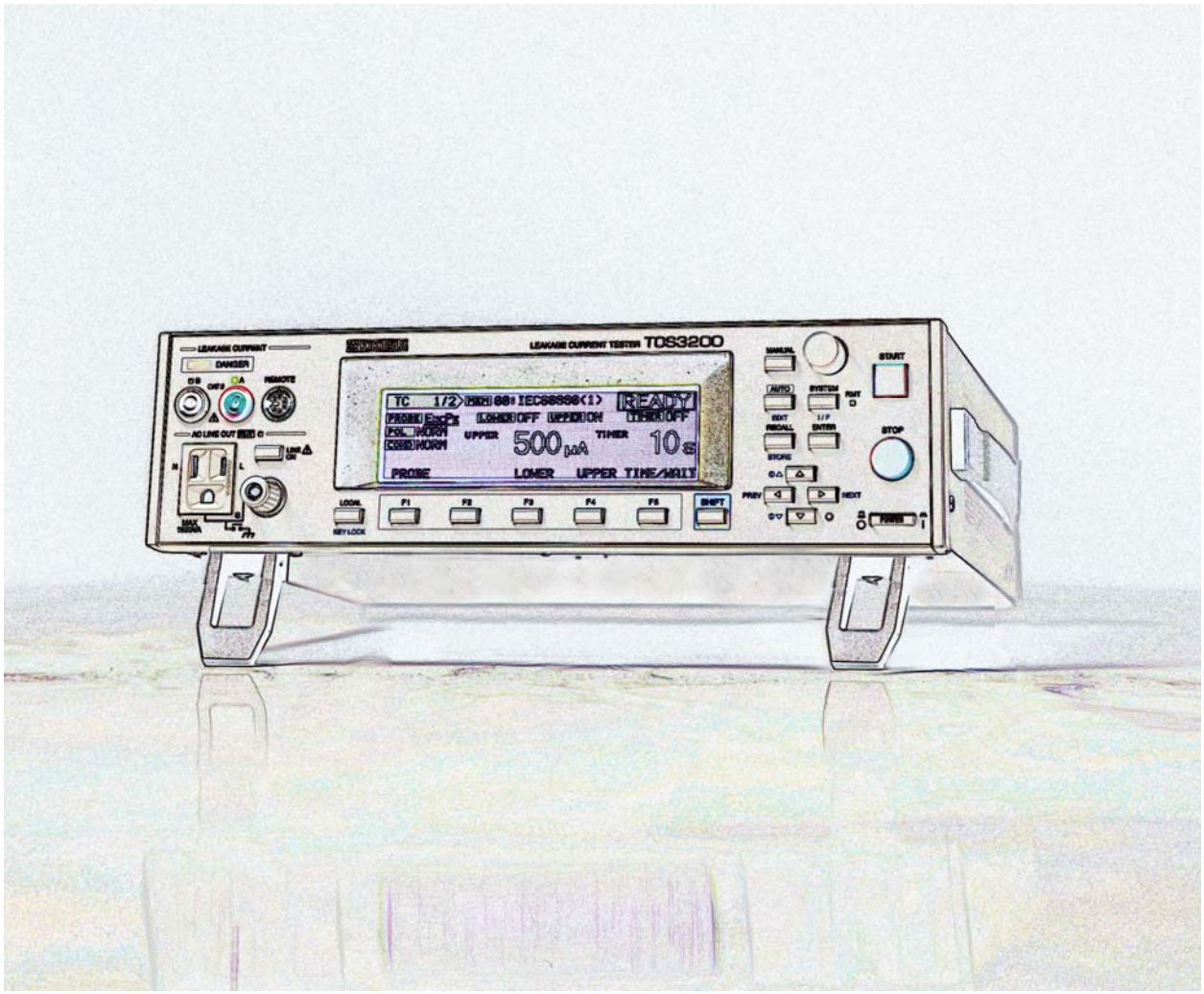
ソフトウェア取扱説明書

「TOS3200 Assist」（β版）

（TOS3200 アシスト）



初版　2007 年 3 月 22 日作成

Ⅱ版　2008 年 10 月 5 日改版（Network B1 対応）

菊水電子工業株式会社

― 同意事項 ―

本ソフトウェアは以下の全ての事項を同意された方のみが使用することが出来ます。

１．禁止事項

(a)本ソフトウェアおよび取扱説明書を改変、またはリバースエンジニアすることはできません。

(b)本ソフトウェアをこの取扱説明書と分離して使用することはできません。

２．無保証

当社は、本ソフトウェアが使用される方の目的のために適当であること、もしくは有用であること、又は本ソフトウェアに瑕疵がないこと、その他本ソフトウェアに関するいかなる保証もいたしません。

３．免責

当社は、いかなる場合においても、本ソフトウェアの使用又は使用不能から生ずるいかなる損害（事業利益の損害、事業の中断、事業情報の損失、その他金銭的損害）に関して、一切責任を負いません。

― お願い ―

- このソフトウェアをご使用になる前にリーケージカレントテスタ「ＴＯＳ３２００」の取扱説明書を必ずお読みください。
- このソフトウェアのお問合せは以下のメールアドレスまでお願いします。

hanbai@kikusui.co.jp

Microsoft, Windows は米国 Microsoft Corporation の登録商標です。
Microsoft Office 2003, Microsoft Excel 2003 は米国 Microsoft Corporation の商標です。
Pentium は米国 Intel Corporation の商標です。
NI-VISA は米国 National Instruments Corporation の商標です。
その他、記載されている会社名、商品名、製品名などは一般に各社の商標もしくは登録商標です。

取扱説明書の一部または全部の転載、複写は著作権者の許諾が必要です。
ソフトウェアの仕様や取扱説明書の内容については予告なく変更することがあります。
本書はバージョン“1.0xβ”の『TOS3200 Assist』(SPEC80477)に適用します。

Copyright© 2007　菊水電子工業株式会社

目　　次

１．　**はじめに**　・・・・・・ 4
1-1 概要　・・・・・・ 4
1-2 必要な動作環境　・・・・・・ 4

２．　**使用準備**　・・・・・・ 5
2-1 セットアップ　・・・・・・ 5
2-2 TOS3200 との通信接続　・・・・・・ 5

３．　**使用方法**　・・・・・・ 6
3-1 パネルメモリ[MEM]　・・・・・・ 6
3-2 プログラムメモリ[PRG]　・・・・・・ 7
3-3 テストデータ[MANUAL]、テストデータ[AUTO]　・・・・・・ 8
3-4 テストモニタ[MON]　・・・・・・ 9

1．はじめに

1-1　概要

本ソフトウェア『TOS3200 Assist』(SPEC80477)は菊水電子工業㈱製リーケージカレントテスタ TOS3200 を便利有効に活用するため、USB インターフェースを用いてパソコンとの通信を行って、以下の五つの機能を実現します。

① 全パネルメモリ（マニュアルでの試験条件）の書き込み、読み出しとファイル保存
② 全プログラムメモリ（オートでの試験条件）の書き込み、読み出しとファイル保存
③ マニュアル試験での全試験結果の読み出しとファイル保存
④ オート試験での全試験結果の読み出しとファイル保存
⑤ 試験中の測定電流などの読み出しとファイル保存

＊ファイルは CSV 形式です。

1-2　必要な動作環境

●パーソナルコンピュータ

CPU	Pentium4 以降	
OS	Windows XP SP1 以降	(日本語)
CD-ROM (ﾀﾞｳﾝﾛｰﾄﾞ版では不要)	セットアップ時に使用	
マウス	必須	
ディスプレー	解像度　1024x768 以上	
メモリ	RAM 512MB推奨	
ハードディスク空き容量	10MB以上	
VISA ドライバー（**必須**）	KI-VISAver3.1.0 以降 **または、**NI-VISAver3.4 以降	下記参照
ソフトウェア（推奨）	Excel2003以降	
インターフェース	USB	

(参考)

・KI-VISA は以下の URL からダウンロードできます。

http://www.kikusui.co.jp/download/jp/kivisa_j.html

・NI-VISA は以下の URL からダウンロードできます。(ユーザ登録が必要)

http://digital.ni.com/softlib.nsf/webcategories/85256410006C055586256BAC002C51FA?opendocument&node=132070_US

（ご注意）KI-VISA と NI-VISA は共存出来ません。どちらか一方の使用となります。

●リーケージカレントテスタ TOS3200

バージョン	Ver.1.03 以降	
USB 接続ケーブル	USB2.0 用(A ｺﾈｸﾀ･ｵｽｰB ｺﾈｸﾀ･ｵｽ)	

2．使用準備

2-1　セットアップ

最初に使用する場合、パソコンに VISA ドライバーと本ソフトウェア『TOS3200 Assist』をインストールする必要があります。また、TOS3200 の I/F 設定を「USB」にします。

●VISA ドライバーと TOS3200 Assist のインストール

CD-ROM を挿入、または Setup.exe を実行することでインストールできます。

既に VISA ドライバーがインストールされていると、TOS3200 Assist のみのインストールです。VISA ドライバーがインストールされていない PC では先ず KI-VISA をインストールして、その後 TOS3200 Assist をインストールします。インストール中の問い合わせには初期設定のまま進んでください。インストール後は以下のファイルがセットアップさせます。

Program files¥Kikusui¥TOS3200Assist¥	･･･ メイン・フォルダー
¥TOS3200Assist.exe	･･･ 実行プログラム本体
¥TOS3200AssistMan.PDF	･･･ 取扱説明書（本書）
¥*.DLL	･･･ 各種 DLL ファイル
¥Samples¥MEM00.CSV	･･･ パネルメモリのサンプル
¥Samples ¥PRG00.CSV	･･･ プログラムメモリのサンプル
¥Samples ¥ResultMAN00.CSV	･･･ マニュアル試験結果のサンプル
¥Samples ¥ResultAUT00.CSV	･･･ オート試験結果のサンプル
¥Samples ¥TestMon00.CSV	･･･ 試験モニタ結果のサンプル

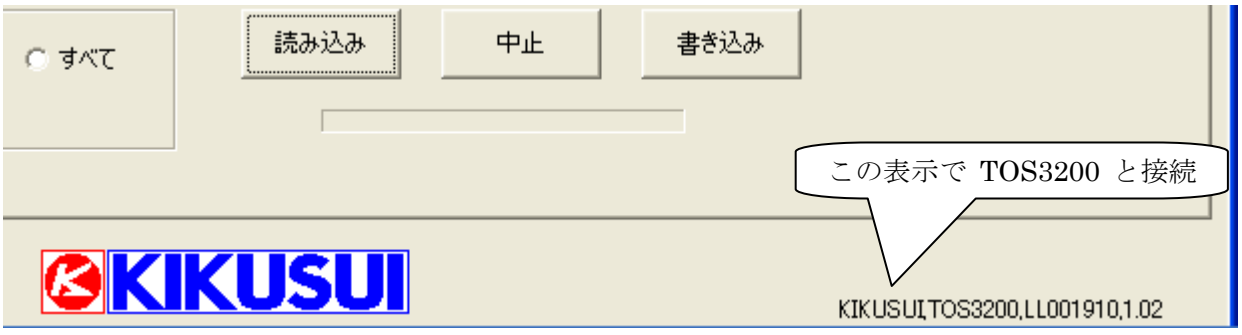
●TOS3200 本体の I/F 設定

TOS3200 の取扱説明書「7.4.3　USB インターフェース」を参照して、TOS3200 本体の『I/F SELECT』を“USB”に設定します。設定後は必ず電源を再投入して下さい。

2-2　TOS3200 との通信接続

パソコンと TOS3200 を USB ケーブルで接続した後に TOS3200 の電源をオンします。ソフトウェア TOS3200 Assist を実行すると画面右下に“KIKUSUI,TOS3200,(S/No),(Version)“が表示され、TOS3200 の「RMT」ランプが点灯して通信が確立した事が確認できます。通信が確立しない場合には、TO3200 の I/F 設定の確認と Windows のデバイスマネージャや VISA ドライバーなどで USB インターフェースをチェックして TOS3200 を認識させてください。

注）TOS3200 の測定回路網 B1（ファームウェア Ver2.00 以上）を使用する場合は、本ソフトウェア実行ファイル名（アイコンのプロパティ）の後ろにパラメータ”-B1”を付加してください。



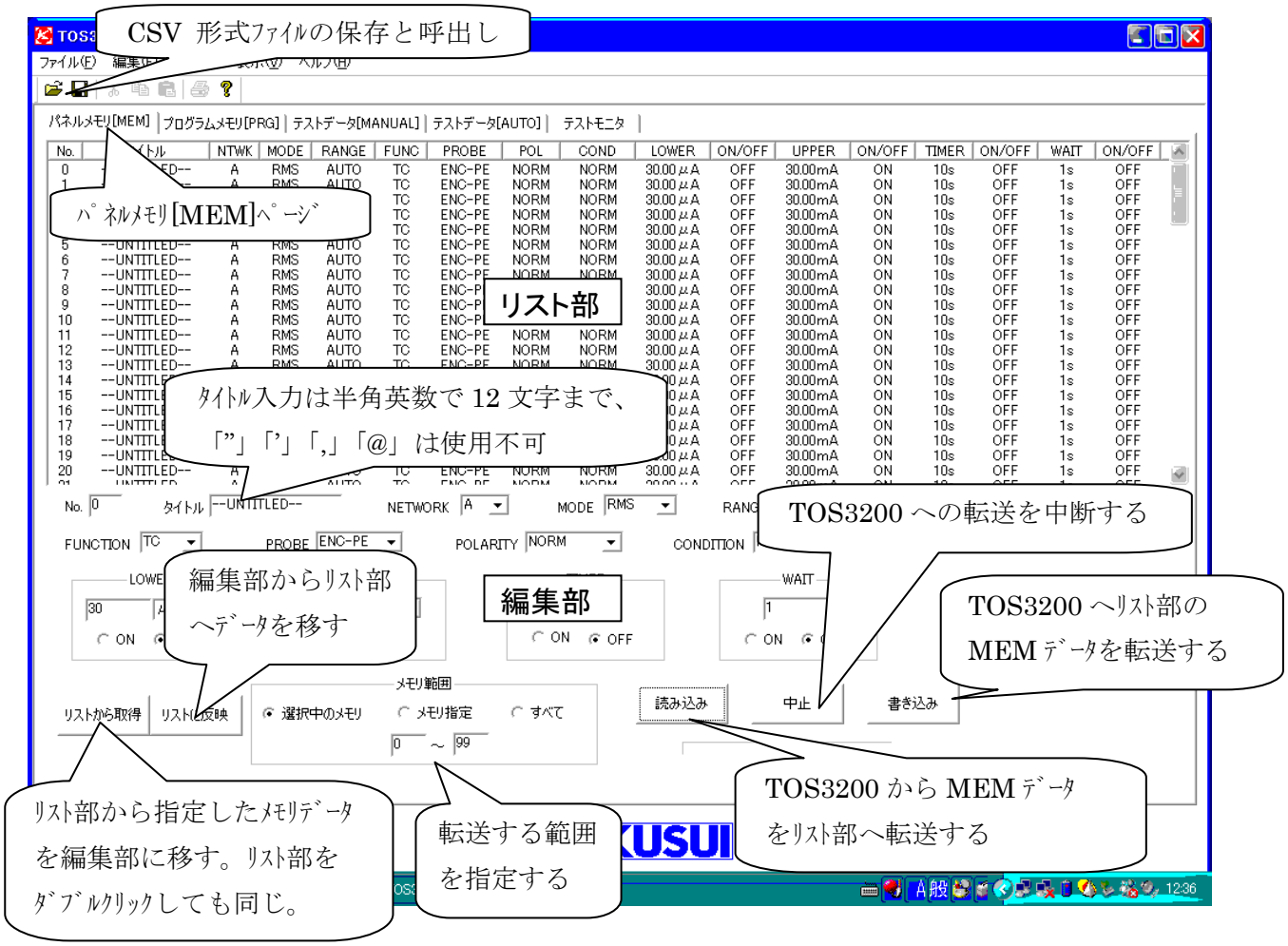
3．使用方法

3-1　パネルメモリ[MEM]

TOS3200 内にある全パネルメモリ（マニュアルでの試験条件）の書き込み、読み出しと保存が出来ます。

TOS3200 から読み出したパネルメモリデータ（MEM データ）はリスト部に入ります。リストから選んだデータを編集部に移して試験条件を変更します。変更したデータをリスト部に移し、TOS3200 に書き込みます。

リスト部にある全パネルメモリデータを一括して CSV ファイル形式でパソコンに保存します。CSV ファイルを開くと保存されたデータがリスト部に入ります。



編集部で TOS3200 の試験条件を設定します。試験条件の呼称、範囲や制限については TOS3200 の取扱説明書を参照ください。

＜ご注意＞

・CSV ファイルは Microsoft Excel 2003 などで開けますが、本ソフト以外での編集や書換えは避けてください。読み込めなくなる可能性があります。

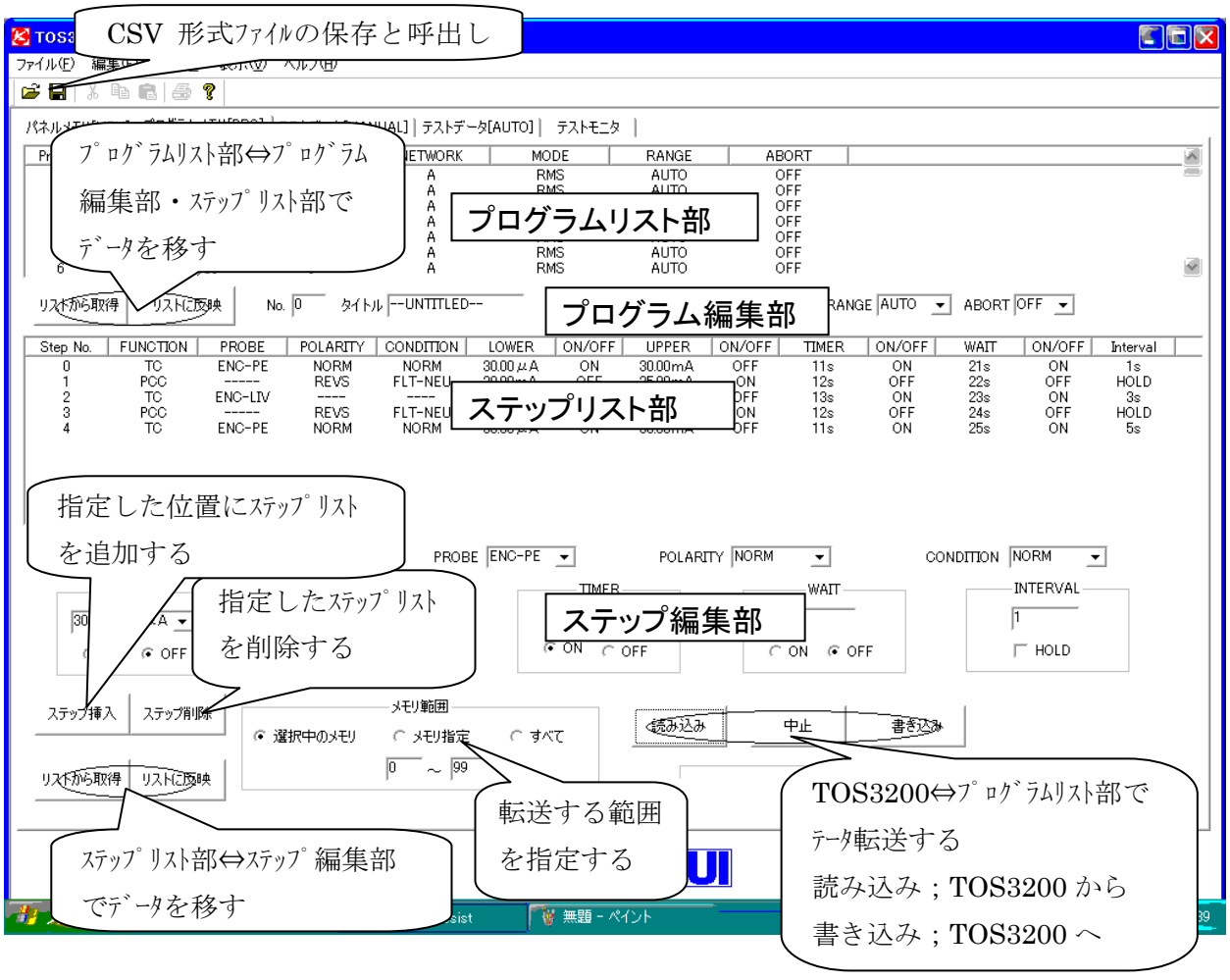
3-2　プログラムメモリ[PRG]

TOS3200 内にある全プログラムメモリ（オートでの試験条件）の書き込み、読み出しと保存が出来ます。

TOS3200 から読み出したプログラムメモリデータ（PRG データ）はプログラムリスト部に入ります。プログラムリストから選んだデータをプログラム編集部とステップリスト部に移します。プログラム編集部でステップ試験での共通試験条件を変更します。変更したデータをプログラムリスト部・ステップリスト部に移し、TOS3200 に書き込みます。

ステップリストから選んだデータをステップ編集部に移して試験条件を変更します。

プログラムリスト部にある全プログラムメモリデータを一括して CSV ファイル形式でパソコンに保存します。CSV ファイルを開くと保存されたデータがプログラムリスト部・ステップリスト部に入ります。



編集部で TOS3200 の試験条件を設定します。試験条件の呼称、範囲や制限については TOS3200 の取扱説明書を参照ください。

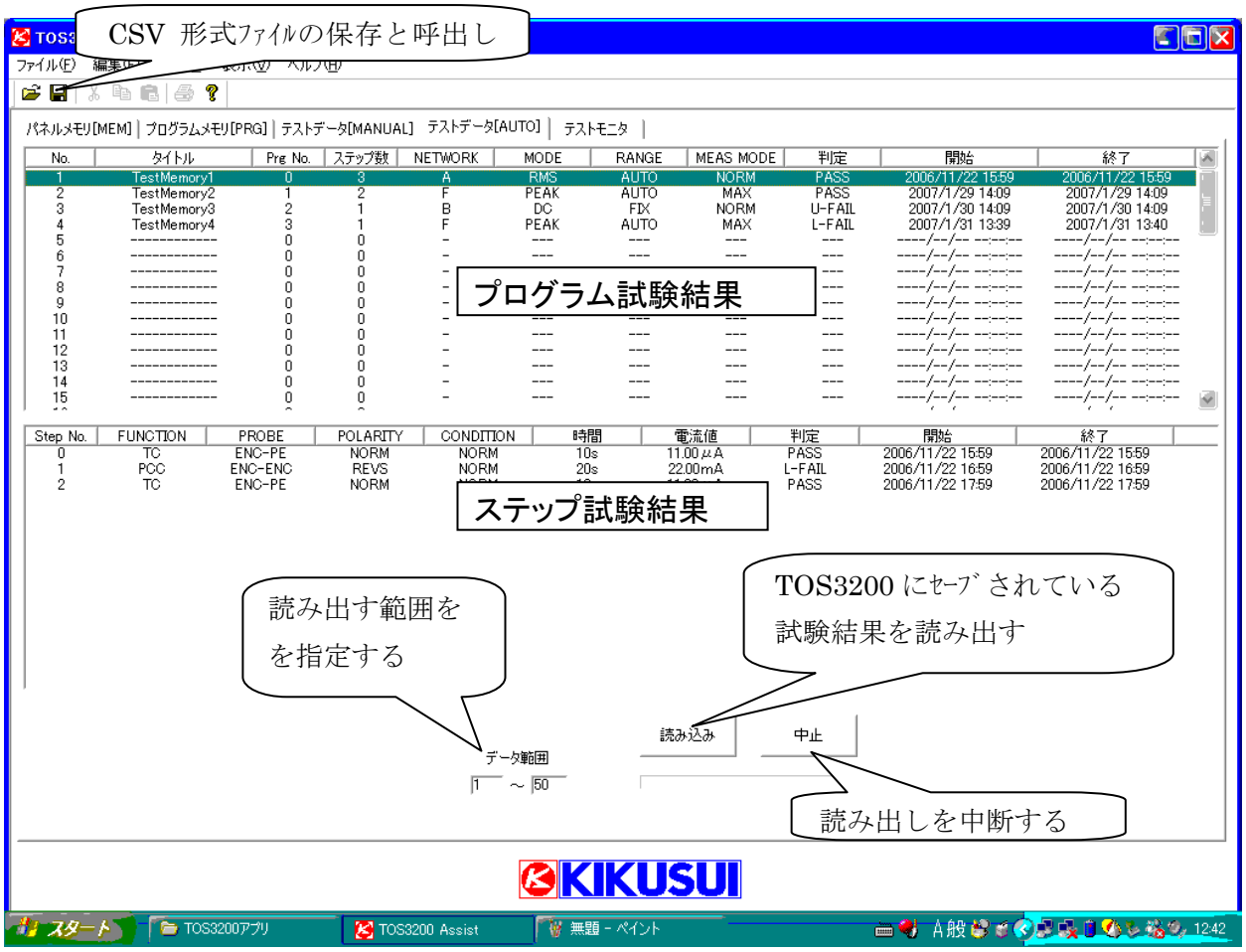
＜ご注意＞

・CSV ファイルは Microsoft Excel 2003 などで開けますが、本ソフト以外での編集や書換えは避けてください。読み込めなくなる可能性があります。

3-3　テストデータ[MANUAL]、テストデータ[AUTO]

TOS3200 内にセーブされている全試験結果（テストデータ[MANUAL]ではマニュアル試験、テストデータ[AUTO]ではオート試験）の読み出しと保存が出来ます。

それぞれの試験の全試験結果を一括して CSV ファイル形式でパソコンに保存します。CSV ファイルを開くと保存されたテストデータが表示されます。



（上の画面はテストデータ[AUTO]のものです。テストデータ[MANUAL]でも同様の画面構成です。）

＊試験内容の呼称については TOS3200 の取扱説明書を参照ください。

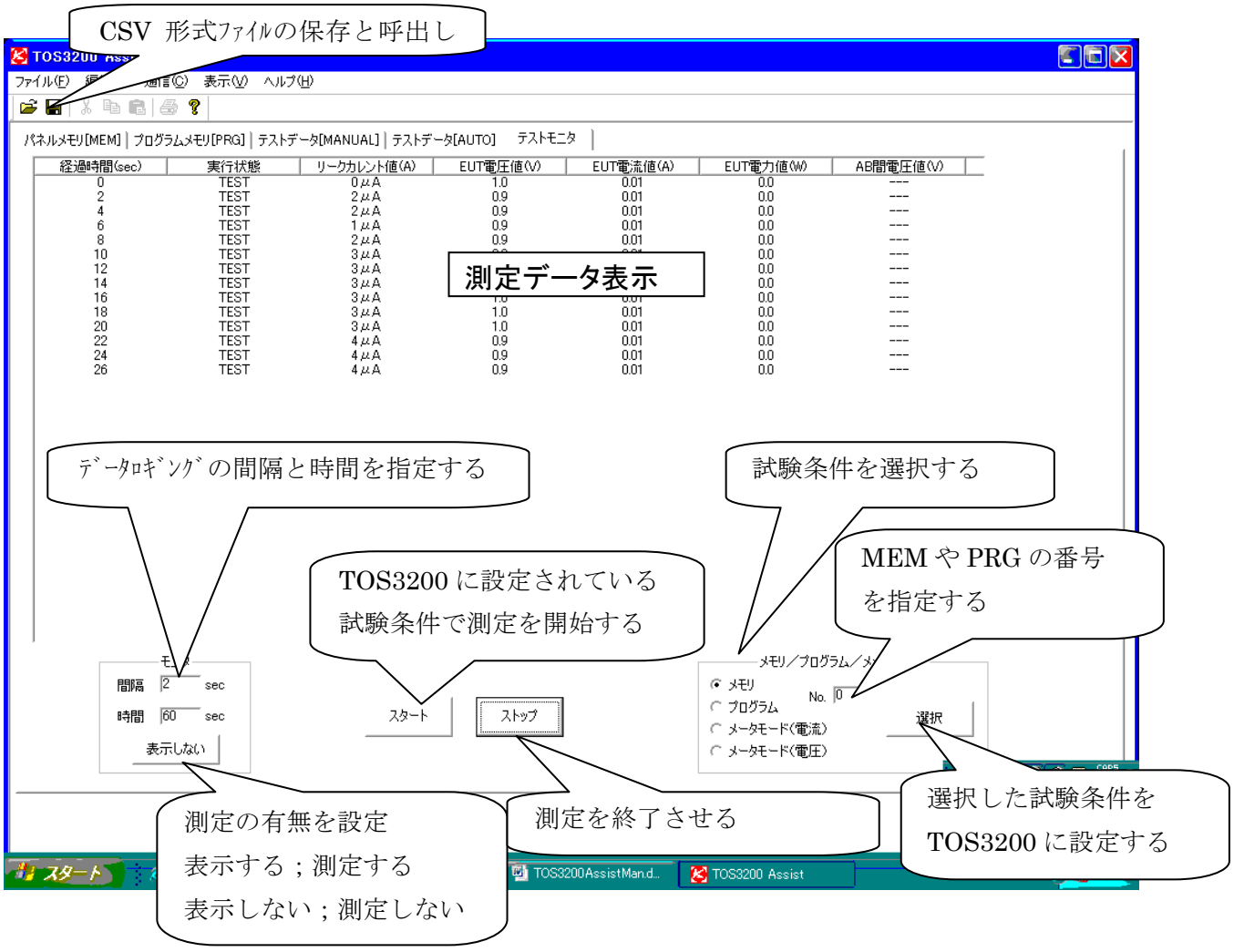
＜ご注意＞

・CSV ファイルは Microsoft Excel 2003 などで開けますが、本ソフト以外での編集や書換えは避けてください。読み込めなくなる可能性があります。

3-4　テストモニタ[MON]

TOS3200 の MANUAL モード、AUTO モードと METER モードでの試験実行と電流測定値などをデータロギングします。測定の最短サンプリングは 1 秒、最長測定時間は 3600 秒（1 時間）です。

取得した測定データを一括して CSV ファイル形式でパソコンに保存します。CSV ファイルを開くと保存されたロギングデータが表示されます。



＜ご注意＞

・間隔を 1 秒に設定すると、メータモード（電圧）以外ではリークカレント電流のみの測定となります。

・ 測定サンプリングはパソコンのシステムクロックを使用しており、データ表示の経過時間は TOS3200 からのデータを使用しています。お互いのクロックは非同期ですので経過時間表示がサンプリング間隔と合わない場合があります。

・ 本ソフトでは測定データをグラフ化することは出来ません。グラフ化するには保存した CSV ファイルを Microsoft Excel 2003 等の他のソフトウェアで処理してください。

・ CSV ファイルは Microsoft Excel 2003 などで開けますが、本ソフト以外での編集や書換えは避けてください。読み込めなくなる可能性があります。